

# げんきっこ

NO.11  
2012.3



平成 23 年度  
最終お別れ号

岐阜聖徳学園大学附属幼稚園

あたたかな日差しに春の訪れを感じるこの頃、プランターのチューリップは茎をどんどん伸ばし、つぼみをつけ可愛い花を咲かせてくれる日がもうすぐやってくることでしょ。春がめぐってくるたびに入園当初の頼りなげな子ども達の姿を思い出します。と同時に一年ごとに確実に大きくなっていく子ども達の逞しさと旺盛な生命力に感動を覚えます。できなかったことができるようになった喜びは自信に、仲間と力を合わせて取り組む体験は思いやりの心や協調性を育ててきたことと思います。



この時期にここで一緒に過ごした仲間たち、新しい春の訪れと共にやってくる新しい環境の中でも、自分らしさを精いっぱい発揮してくれることを願っています。

## 「げんきっこ」との出会い

園長 今井 千晴

小学校、中学校の勤務経験しかない私にとって、幼稚園の「げんきっこ」との毎日は、驚きの体験や新鮮な感動の連続でした。4月5月の出会いの中で、私は子ども達にいろいろな呼ばれていました。

- 「おじいちゃん」白髪頭ではその通りです。するどい観察眼です。
  - 「おとうちゃん」うれしいことを言ってくれました。若く見てくれてありがとう。
  - 「おじいちゃんせんせい」新しい園長らしいと思ってくれたのでしょうか。
  - 「おばあちゃん」寂しくなった子が「おばあちゃん」と言いながら私の膝に乗ってきました。おばあさん子なんだと、かわいくなりました。
  - 「お客さん、今日は」見たこともない私がお客さんに見えたのでしょう。
- 4月5月は子ども達にとって、私はどんな存在だったのでしょうか。私は誰でしょう。と自問する毎日でした。



そんな「げんきっこ」も今では全員「園長先生」と呼んでくれます。「大きくなったなあ。成長したな。」と思うと同時に、膝に乗ってこなくなった「げんきっこ」に寂しい思いもしています。成長とは、自立とは、そして園長とは、と考え続けながらの勤務です。「げんきっこ」との出会いに感謝し、進級・卒園の素晴らしさに感動しています。

逆上がり補助器と園長先生のおかげで、鉄棒の好きなげんきっこが増えました

## あ～楽しかった！

主任 川村 弘子

今年のお別れ遠足は惜しくも雨天でした。前日から予想はしていたものの、まさか朝からあんなに降るとは思っていませんでした。急ぎょ、メールで傘やカッパの用意をお願いしたお陰で、バスを降りてアクア・トトに入館するまでの数百メートルの距離を濡れずに歩くことができました。子ども達の二人仲良く傘をさし合う姿にも微笑まじさが感じられました。

館内では年長が10時半のアシカショーに滑り込みで間に合い、その後、館内見学、年中と年少はひと足遅れて到着し、その後、お弁当と館内見学に分かれて、12時からのアシカショーと一緒に観ることができました。今回の遠足の目的である館内見学、アシカショー、お弁当の3つの楽しみをどの年次も存分に味わうことができたようです。これも保護者の方のご協力と、先生達のチームワーク、メールや携帯電話の有効利用などすべてが連携よくそれぞれの機能を十分発揮することができた結果であり、子ども達が園に戻りバスを降りて漏らした「あ～楽しかった！」という一言にすべてが込められていたように思われます。

園生活の中で子ども達がたくさんの笑顔と心に残る体験を積み重ねていけることが私たち職員の願いです。入園から卒園の日まで一人ひとりの子どもの成長を願いながら、これからも充実した毎日を過ごしていけるよう力を合わせて頑張っていきたいと思います。



アシカのマリンちゃんがみんなのところに来てくれたね。

## 人の支え

さくら組担任 浅野 美香

今年度、年長組の担任をさせていただきました。行事や活動を進めていく中で、不安や戸惑うことが沢山あり、1年間を無事に過ごせるのか心配な時期もありました。そんな時、心の支えになってくれた人たち。家族や友人、先生方、保護者の方々...多くの方に温かい言葉やアドバイスをいただき、この1年を過ごすことができました。悩んだ時に助けてくれる人がすぐ側にいるという安心感、心強さ。今年度はそんなことを強く感じた1年となりました。

これから社会に出ていく子ども達。子ども達にも悩んだ時や躓いた時、助けてくれる人がすぐ側にいるという安心感や心強さを知ってほしいと思います。そしてそんな素敵な人間関係をどんどん築いていってほしいと思います。金八先生の数ある名言の中に「人という字はヒトとヒトとが互いに支えあってできている」という言葉があります。私も多くの方に支えていただいた分、今度は誰かの支えになっていけるような人間でありたいと思います。



金華山登山をして岐阜城から見た街のながめは最高だったね！

## たいせつなたからもの

もみじ組担任 前川 佳美

「『おもいで』と聞いてどんなことが浮かぶ？」卒園を前にしたある日、子ども達に尋ねてみました。「うーん。」少し考えた後、楽しかった遊びや頑張ったことなどをそれぞれが話してくれました。この時にひとつ気づいたことがあります。それは、どの話にも友達が登場してきたということです。毎日一緒に生活する中で、友達の存在が大きなものとなっていたのです。

そこで、答えは返ってこないだろうという予想のもと、「みんなにとって『ともだち』ってなに？」と、聞いてみました。すると、「たいせつなたからもの！」すぐに一人の男の子が声を上げました。そして、その言葉を聞いた子ども達の顔はにっこり！その場は温かい空気に包まれました。「たいせつなたからもの」顔を見合せて微笑む子ども達の心には、この言葉が鳴り響いているような気がしました。

これから先、たくさんの出会いがあると思います。「たいせつなたからもの」をたくさん見つけていってくださいね。



みんなで創り上げた劇をたくさんの人に見てもらえてうれしかったよ。



## 「春が来ました」

こじか組担任 川口 貴恵子

子ども達に人気があったザリガニは、寒い冬の間に、苔だらけになり、生きていたのか死んでいるのかもわからないほどひっそりとしていました。中を覗き込んでも、動かないものはおもしろくありませんから、子ども達の興味もかなり薄れていってしまいました。

先日、久しぶりに水槽の中を覗いてみると、苔で緑になっていたザリガニの体が赤く変化し、ごそごそと動きまわっているではありませんか。「わっ、春が来た!」と言うと、近くにいた子ども達が集まってきました。知らない間に冬眠から目覚めていたのです。餌を与えると、お腹がすいてたまらなかつたと元気よく餌にとびついてきました。「わー、生きてる、生きてる!」と子ども達の喜びの声が上がりました。ふと、園庭を見るとチューリップも芽を出しています。

誰も何も言わないのに春を感じてる、季節の移り変わりを感知する、改めて自然の営みの素晴らしさに気がつきました。子ども達の成長とも重なります。春が来て、ひとまわり大きくなってくれたことが実感できる日々、毎日感動でい



いろんなパフォーマンスでみんなを楽しませてくれた先生達。



ぱいです。「生きる」ってすごいことだと思います。

### 挑戦する気持ち

きりん組担任 小田 奈津美

クラスの子とあやとりをしていた時のことです。「先生も小さい時、いっぱいあやとりやったよ、今はやり方忘れちゃったけど...」四段梯子を教えて欲しいという子に、私はこう答えました。すると、「え～先生も小さいとき練習したの?」「誰に教えてもらったの?」と、急に子ども達からの質問攻めにあいました。先生にも自分達と同じように小さい頃があり、同じようにあやとりで夢中になったという話は、子ども達にとって興味深いものだったようです。そんな話をしていると、私は自分自身が夢中になっていた頃に感じた喜びや悔しさ、楽しさなど色々な感情を思い出しました。



おじいちゃんやおばあちゃんとり  
ズムにのって楽しく踊ったね。

この一年間、私は子ども達の挑戦する姿をたくさん見てきました。あやとりや縄跳び、こま回し、鉄棒...何度も練習を繰り返し、そして、ついにできるようになった瞬間にも何度か立ち合うことができました。「できた!」という驚きと喜びに満ちた子ども達の笑顔が、私は大好きです。これからも何事に対しても挑戦する気持ちを大切にしていきたいと思っています。

### 本当にだいじなもの

きく組担任 國枝 哲子

「本当にだいじなものは、かくれてみえない...」この歌詞は竹内まりやさんの「いのちの歌」の一節です。ある番組のテーマソングで、一度聴いて以来、耳から離れません。

子ども達は日常の生活の中でほんの些細なことでぶつかり合います。その原因は、大半が自分の気持ちを押し通し、相手の子の気持ちにまで気付かないことにあります。「自分だったらどう?」と考える時間をもつことで、相手の気持ちに気付き、すぐに許し合い、数秒後には手を繋いで笑顔で遊んでいます。



鬼が来ても大丈夫。先生が守ってあげるからね。

そんな純粋な子ども達の姿を見ると、私達大人も、子育てを通して、隠れて見えなくなってしまった様々な大切な心を学ばせてもらっているのではないかと感じる毎日です。

この広い世界の中で巡り合えたこと、それは奇跡です。出会えたこと、学ばせていただいたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。



## 感謝

ゆり組担任 浅野 亜衣

右も左も分からないまま、がむしゃらに走り抜けてきた1年間。満足のいくほど子ども達の思いに寄り添ってあげることもできていなかったかもしれません。しかし、2月の懇談で、「は、家で『亜衣先生がいい～!』と泣くことがあるんですよ。本当に は亜衣先生が大好きで、来年度も担任をお願いしたいくらいです。」とお話して下さった保護者の方がみえました。言葉にならないほど嬉しく感じた瞬間でした。

じっくり時間をかけて子ども達と築いてきた信頼関係は、保育をする上で強い味方になります。まだまだの無力な私に心を寄せて付いてきてくれた子ども達、明るい笑顔で元気をくれ支えてくれた子ども達に感謝の気持ちでいっぱいです。



初めての運動会。がんばりました!

そんな子ども達も1年間でいろんなことを経験し、一喜一憂しながらも確実に成長を見せてくれました。新たな1年間も、多くの人との関わりを大切にしながら、充実した日々を過ごし、心豊かに成長して欲しいと思います。

## たのしい!

ひまわり組担任 野村 敦子

1年の間に“はじめての出会い、”をたくさん経験してきた子ども達。保育者や友達との出会い、いろいろな遊びや活動との出会い。それは子ども達にとって、憧れの気持ちが芽生える瞬間でもありました。そして憧れは「おもしろそう」「やってみたい」という意欲に繋がっていきます。一步踏み出すことができると「楽しい」という思いが溢れ、「もう一回、もう一回!」と夢中になり、遊び込む姿として現れました。

郵便ごっこでは、“文字、”に憧れました。文字に似たものを紙いっぱいに書いたり、覚えただばかりのひらがなをいくつか書いたり、いろいろです。解読するのが難しい手紙には、「また一緒に遊ぼうね」「今日、一緒にお給食食べようね」など、それぞれの思いが詰まっていました。自分の思いを伝えることのできる魔法の文字。手紙をきっかけに友達との関わりも広がりました。

運動遊びでは、年長・年中さんに憧れて鉄棒や長縄跳びにも挑戦しました。失敗しても諦めることなく挑戦し続ける姿から、憧れの気持ちは、頑張る気持ちのエネルギー源になるのだと感じました。そして成功すると、「精一杯頑張ったよ」「かっこいいでしょ!」といった誇らしげな笑顔がこぼれます。また、そんな姿は、「楽しいから頑張れる」という思いを語っているようにも感じました。

これからも、自分をのびのびと表現できる楽しさ、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、最後まで諦めず頑張る楽しさ、できなかったことができるようになり、また一つ大きくなる楽しさをたくさん味わってください。



お遊戯大好き!曲に合わせて体が自然に動いちゃうよ。



## 子どもと絵本

たんぼぼ組担任 川崎 紀子

「せんせい、今日絵本読める？」毎日お昼寝の前に子ども達から尋ねられるほど絵本は楽しみにしている時間です。この半年間、本当にたくさんの絵本を子ども達と楽しむことができました。好きな絵本は何度でもリクエストがあります。そのうち私が読み出すと、次の言葉を子ども達の方から話すほど覚えています。

「グリーンマントのピーマンマン」という絵本があります。このお話はみんなが大好きで何度も繰り返し読んでいます。ある日の給食の時、「先生、この緑のお野菜、ピーマンマンの仲間？」と聞いてきました。するとほかの子が、「これ食べたらピーマンマンになれるんじゃない！」と話し、みんながその野菜を食べ始めました。ひとつの絵本からどんどんお話の内容が広がっていき、

子ども達の心の根っこにはちゃんと残っているんだなととても嬉しく思いました。

これから子ども達がたくさんの絵本に出会い、その絵本が心の根っこに残ってくれることを願っています。



雨にも負けず頑張ったお芋掘り

## 知らないことからのスタート

たんぼぼ組担任 太田 郁乃

園では毎日私たち大人が思いもよらないようなハプニングが続出しています。失敗を恐れない子ども達は自分の思うがままに行動し、その結果さまざまなハプニングを生み出しています。これがとても感動的でおもしろいのです。

(そういえば我が子も1歳の頃、トイレの便器の中でキーホルダーの魚を泳がせていたり、高級メロンでボール遊びをしてしまったことが...大人の常識では考えられないことですが、トイレの水が汚いとか、メロンは投げてはいけないものなど知らない子どもにとっては、ただ単に魚は水の中を泳ぐもの、丸いものはボールというイメージだったのでしょうか。)

知らないことからスタートする子ども達は遊びを通して自分なりに挑戦したり、けんかをしたり、成功や失敗を繰り返して学んでいきます。失敗やハプニングが多ければ多いほど強く心豊かな子に育っていくように思います。私としてはつい「成功してほしい、失敗しないで」と手を出したくなることもありますが、一歩待って(これがなかなか難しいのですが...)子ども達を見守ってあげたいと思います。子ども達がこれからもさまざまな経験を通して、大きく成長されることを願っています。



たんぼぼのみんなが大好きな  
いくの先生、のりこ先生  
またあそびにきてね!

## 成長が楽しみです

事務 脇田 成子

幼稚園には大きな桜の木が一本と榎の木が二本あり、春は満開の桜の花、夏は木に集まるせみなどの虫、秋は紅葉した落ち葉、と季節毎に園庭で遊ぶ子ども達を楽しませてくれます。昨年の春は芝生の園庭に、ブルーベリーや金柑など果実のなる木を含む数本の苗木が植えられました。これらの木がどんどん育ち、花を咲かせて実をつける様になるのが今から楽しみです。

我が家には、子どもが小学校入学の記念に市から頂いた姫リンゴとハナミズキがあります。支えがないと倒れてしまいそうな細くて小さな苗



つきたてのお餅、やわらかかったよ



木でしたが、20年近く経った今では、子どもが成長するのと同じ様に育ち、気が付けば幹は太く見上げるほどの高さになりました。

園の苗木も子ども達の成長に寄り添いながら大きく育ってくれることを願っています。そして、子ども達もいろいろな事を経験し、生きる力を蓄え成長してくれるよう応援しています。

## 早いもので

あおぞらバス運 転手 篠田 五三郎

3年3ヶ月、あっという間の期間でした。今年卒園する年長さんと、同じ園生活期間でした。入園したてで、初めての社会、お母さんから離れる悲しさから園バスに乗る時に泣いたあの子たち、中には何処へお出かけするのかなと好奇心一杯に目を輝かせていたあの子たちが、3年の間に心身共に大きく成長し、小学校に通えるまでになりました。

卒園式での年長さんの挨拶のように、ほぼ毎月何か行事がある幼稚園。友達と知り合い、また、保護者の皆様の顔つなぎとなる少し緊張感の漂う親子遠足、七夕の竹取、夏祭りの設営、デイキャンプでのカレーライス作り、キャンプファイヤーで65歳の歌とダンス、男の子との大浴場での入浴時、相当湯を掛けられたな~

運動会の準備、リレーの練習時一緒に走ったこと、練習を重ねるうちに走るフォームが綺麗になり、速く走れるようになりましたね...国旗万国旗の掲揚、紅白の玉入れで籠を背負って園児に追いか



篠田さんが育てた芝生の園庭を  
思い切り走って玉入れをしたね。

けられたこと、緑道公園での園外保育で散歩中の一般の人から「可愛いねー」と声を掛けられ妙に誇らしく嬉しく思ったこと、芋掘り遠足に行き、土掘りをして腰を痛め、家で入浴剤を入れて腰を温めたこと、金華山登山で励ましながら頂上に到着し、一緒にお弁当を食べたこと、お餅つきで杵を持ち腰に負担をかけたが、できたてのお餅を摘み食いして大変美味しかった。

園で採れた大根を煮て皆で食べたこと、節分で鬼役になり豆をかけられ、送りのバスの中で「鬼はシノダさんでしょう」「白髪が見えたからわかったよー」と言われたこと、生活発表会の練習を給食を運びながら見聞きし、ホールの練習に私一人だけお客さんで見たこと、バスの中で「まるまるもりもり...」と歌ってくれたりするなど、思いつくまま散文的に書かせていただきました。

送迎バスでコースを走行し、お母さん、お父さん、おじいさん、おばあさん方のお迎え、お見送りに間近で接しながらお子様への愛情、期待がひしひしと感じられ、大切なお子様を乗せているのだと、気を一層引き締めました。夏休みや春休み、冬休みなど子どもの居ない幼稚園は静かで活気がなく寂しいものですが、元気な子どもの居る園内は、活動的で躍動感にあふれ、熱心な先生の保育で明るく笑い声の絶えない場となっています。「あっ！」今日も何処かで「凄い、できるようになったねー」と声が聞かれます。

この紙面をお借りしまして、こんな年寄りと遊んでくれたり、お話をしてくれ、また若返りのパワーをたくさん送ってくれました園児の皆さんと職員の先生、保護者の皆様、ありがとうございました。



毎日ピアノの練習をしている篠田さん、3月のお誕生会で  
よしみ先生と一緒に園歌を弾いてくれました。



たんぼぼさんを台車  
に乗せて...いいなあ





## はじめの一步

音楽教室講師 山内 友美

今年もまた、たくさんの伸びる芽を持った子ども達と出会い、そして今、お別れです。音楽教室のサイクルは短く、5月から3月までです。夏休みを挟んでいるので、指導できるのはほんとに短い間です。10ヶ月に満たない位です。お家の方の「ことばかけ」をはじめとするご協力をいただいて、この小さな芽は、ほんとはよく伸びてくれます。おそらく、音楽教室のお友だちは、初めて触れた音楽の世界でしょうから、いつも「子どもたちが音楽を嫌いにならないように」と思って指導しています。

9か月で迎える発表会では、いつも立派な姿に成長しています。一生懸命に覚えて、一生懸命に練習して、頑張ってきた子ども達の顔は、それは晴れやかで、自信に満ち、美しく、とても可愛らしいものです。みんなで一緒に弾く面白さ、一人で弾く楽しさは分かったことでしょうか。けれど、幼稚園の音楽教室で学んだことは、ほんの“はじめの一步”です。この音楽教室で学んだことを礎に、どんどん大きくなってほしいものです。

幼稚園の音楽教室を卒業した子の中には、ピアノをずっと続けている人、歌をうたっている人、ドラムをたたいている人、チューバやフルート・トランペットなどを吹いている人、作曲をしている人などがいます。そうそう、ジャズピアノを弾いている人もいます。小さな身体で、一生懸命学んだこの短い期間は、次に繋がるはじめの一步です。未来につながるはじめの一步です。この一步、大切にしたいものです。

「大きくな～れ、はじめのい～っぱい」



いっぱい練習して素敵な曲が弾けるようになりました。

## See you again !

英語教室講師 内館 泉

年長組のみなさんが卒業する3月、私も附属幼稚園から旅立つことになりました。いつもは見送る立場なので何だか不思議な気分です。児童英語の授業の実践活動として、大学の先生が何人かの学生を連れてお邪魔したのが、附属幼稚園との出会いでした。私はその学生の1人だったのです。好奇心旺盛な幼児期の子ども達は、母語とは異なる言語という垣根を軽々越えて、英語遊びに参加してくれました。その純粋で大きなパワーにとっても驚き、同時に幼児英語の可能性を強く感じたのを覚えています。

私はハローイングリッシュを通じて、たくさんの事を学ばせていただきました。どんなテーマの英語が適しているのか、どんなアプローチがみんなの関心を引くのか、10年以上試行錯誤して少しずつ見えてきました。皆さんの笑顔と担任の先生方のサポートがあったからこそ、今日までやらせていただくことができたと思います。

本当にありがとうございました。

また会える日を願って See you!



先生のリアクションで楽しく英語に親しむことができました。



最後のハローを終えてお別れ会をしました。「いずみ先生は日本語も上手だね」と子ども達は感激！



## 『いっぱい体を動かそう』

体育教室講師 山下 晋

卒園児のみなさん、ご卒業おめでとうございます。これからはいっぱいからだを動かして、マット、鉄棒、ボール遊び...、いろいろな「技(わざ)」に挑戦してください。大切なことは「あきらめないこと」、「先生のお話をよく聞くこと」、「友だちの動きをよく見ること」です。また、大きくなったみなさんに会えることを楽しみにしています。

進級するみなさん、進級おめでとうございます。体育の時間や体操クラブではみんなと楽しく遊ぶ準備をしていくので、楽しみにしててください。いっぱいからだを動かして、元気なお兄さんとお姉さんになろうね！

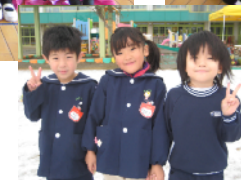
体育教室と体操クラブで運動する楽しさやおもしろさを教えていただきました。



うれしかったこと、楽しかったこと 思い出いっぱい胸につめて がんばってね。



生活発表会総演習の日に撮影



思いがけない雪が降った日に芝生の園庭で

げんきっこの最終号は、この一年間、子ども達に関わってきた職員による寄せ書きを掲載させていただきました。一人ひとりの職員の思いや願いがいつの日か子ども達の心にも伝わることを願っています。

長い人生の中では、決して楽しい事ばかりではなく、辛いことや苦しいことがあるかもしれませんが。今の自分達がおかれている豊かな生活や恵まれた環境に感謝し、これからも友だちや家族、先生や周りの人たちなど多くの人と支え合いながら生きていって欲しいと思います。

一年間、至らないこともありましたが、保護者の皆様にご理解、ご協力いただきながら無事に今年度が終わられることを感謝いたします。

ありがとうございました。

平成23年度 附属幼稚園

職員一同

